

MISSION

大学統合後の附属図書館の発展に寄せて

附属図書館長 村上幸利

大学統合によって、新しい山梨大学が平成14年10月1日に創設されました。新大学の理念は、諸分野の協調によって幅広い教育研究を推進し、豊かな知識と思索力を備えた優秀な人材を育成すること、並びに地域社会と国際社会に貢献できる教育研究機関であることにあります。附属図書館におきましても、この本学の理念に沿って、業務を遂行していく所存であります。すなわち、本学の教育研究活動を今後一層支援するためにも、広く利用者に学術情報を提供して活用していただくための基盤整備と環境整備にさらに努めていくこと、また本学の教育研究成果や所蔵図書資料を地域社会に公開して、地域の知的情報発信基地としての機能を保有した大学図書館を目指していくこととなります。

特に、現在の著しい科学技術の進展や急速な国際化に備えては、電子情報の利用環境の快適化が必須であります。これに関しては、学術情報システムの基盤整備と電子図書館サービスの機能向上が急務であります。また併せて、旧来の貴重な学術図書資料の適正な保存と活用も大学図書館としての重要な使命であります。これらの課題については、大学の統合を機に、今後は一層、積極的に取り組むことを考えております。

さらに、大学法人化に伴う大学の改革が1年余後に迫りつつあります。附属図書館としては、大学図書館としての個性化を図り、利用者の要望に応え、質の高いサービスを学内外に提供できなければ、その存在の意義と価値が否定される可能性すらあると考えております。

このような変動の時代に対して、附属図書館は、大学統合に伴って発足した新体制のもとで、魅力ある大学図書館を目指し、さらなる図書館機能の向上に努めていく所存でありますので、今後とも、学内外の関係者各位の御指導と御鞭撻をお願いする次第であります。

医学分館としての新たな展開に向けて

医学分館長 剣 邦夫

この度の大学統合で、旧山梨医科大学附属図書館は、平成14年10月から山梨大学附属図書館医学分館になりました。

附属図書館の理念等については、館長が述べられていますので、私は医学分館に課せられた今後の課題等について述べたいと思います。

まず、シラバスの電子化とそれに沿った図書資料の充実、電子ジャーナルの拡充とその検索機能の向上を図っていくこととなります。

次に、医療従事者の育成や地域社会への貢献としての視点から、現在ある「生と死のコーナー」の一層の充実を図ることとなります。

また、国立大学も平成16年度から法人化される予定であり、我々を取り巻く環境も厳しくなりますが、大学統合によって明るい展望が開けたところであり、新体制のもとで、魅力ある大学図書館を目指し、本館と協力しながら、さらなる図書館機能の向上に努めていく所存であります。